

だいじょうび？

手関節舟状骨骨折について

手をつく骨折では前腕の橈骨遠位端骨折がよく知られていますが、舟状骨骨折も少なくなく、手根骨骨折の中では7割を占めます。舟状骨は前腕の遠位にある手根骨の橈側（母指側）にあります。舟状骨骨折は転倒などで手関節を背屈した状態で軸圧がかかり骨折することが多く、若年男性に発生しやすいです。サッカー、ラグビー、柔道など接触を伴うスポーツで受傷することが知られています。また体操、バドミントン、テニスなど手関節を酷使するスポーツでは疲労骨折を起こすこともあります。舟状骨は前腕の遠位に隣接しているので橈骨遠位端骨折の数パーセントで舟状骨骨折を合併する場合があります。注意が必要です。

若年成人が転倒後の手関節腫脹と疼痛を訴え、母指近位にある嗅ぎタバコ窩（母指外転時橈骨末梢にできる陥凹部）での圧痛を認める症例は舟状骨骨折を疑います。単純X線撮影では骨折線を認めないこともよくありますが、2～3週して骨折線が表れてくることもあるのでまず外固定を行う必要があります。CTやMRI撮影も効果的です。

舟状骨骨折の大きな問題点は単純X線撮影で把握しに

姫路市医師会
スポーツ医学
委員会

高 祖 清 泰



くく、受傷時に骨折の見逃しが多いことや患者さんが捻挫と判断し医療機関への受診が遅れることが多いのです。

舟状骨はほとんど遠位背側からの血行のみしかなく、骨折が起こると舟状骨近位部は、容易に血行不良となり偽関節や骨壊死に陥りやすいのです。そのため舟状骨骨折では遠位部骨折以外はたとえ転位のないものであっても長期間のギプス固定が必要となるので積極的に手術療法を行う方が良い結果を得られます。骨硬化、骨壊死、長期放置例などは遊離腸骨ブロック移植や血管柄付き骨移植のうえに、強固な内固定が必要となります。

このように舟状骨骨折が偽関節になった症例の治療は非常に困難で、骨癒合が得られたとしても続発する滑膜炎や関節症により関節の可動域制限、握力低下が残存することが多いのです。

手について痛みが生じている場合や腫れがある場合はそのうち痛みが治まるだろうと放置せず、整形外科を受診し適切な治療を受けていただくことが重要になります。